

PRESS RELEASE

2025年12月16日

報道機関 各位

CT機能を搭載した放射線治療装置「Radixact」導入に伴う メディア内覧会開催のお知らせ



今回導入した放射線治療装置「Radixact」

長崎大学病院では、2026年1月より、最新の放射線治療装置「Radixact（ラディザクト）」を導入いたします。

本装置の導入は、長崎県内では初めてとなります。

これに伴い、報道関係者の皆さまを対象に、装置の特徴や治療体制についてご紹介するメディア内覧会を開催いたします。

取材をご希望の方は、12月19日（金）17時までに下記までご連絡ください。

メディア内覧会 概要

日時：2025年12月22日（月）12:00～12:45

場所：長崎大学病院 第一会議室、高エネルギー治療棟

スケジュール：

- ・12:00～12:15 放射線治療および機器の説明
- ・12:15～12:45 高エネルギー治療棟での「Radixact」内覧会

※本内覧会は、患者さんへの影響を避けるため、昼休みの時間帯に実施いたします。

【本リリースに関するお問い合わせ先】

長崎大学病院 総務課（広報・評価・国際）

TEL：095-819-7790 MAIL：mhweb@ml.nagasaki-u.ac.jp

■背景

がん治療の基本は「手術」「薬物療法」「放射線療法」の三本柱であり、近年ではこれら複数の治療法を組み合わせるケース（集学的治療）が増えています。高齢化社会の進行や早期社会復帰へのニーズの高まりにより、患者さんの身体への負担を抑えた「低侵襲治療」の重要性がますます注目されており、その中で放射線治療の役割も一層高まっています。

当院ではこれまで、Varian Medical Systems 社製の「TrueBeam」と「Novalis-Tx」の放射線治療装置 2 台を用いて、高精度な放射線治療を提供してきました。

今回「Novalis-Tx」を Accuray 社製の「Radixact」に更新することによって、2026 年 1 月より当院の治療体制は、「TrueBeam」と「Radixact」の 2 台体制となり、より幅広い治療ニーズに対応が可能となります。

■ Radixact の主な特徴

・広範囲、複雑形状の腫瘍にも対応

ガントリー（輪状部分）を 360 度回転させながら寝台を連続移動させ、らせん状に照射が可能。
最大 135cm までの広範囲かつ複雑な形状の腫瘍にも対応します。

・照射前の CT 撮影による高精度な位置補正

照射前に CT 撮影を行い、腫瘍の位置を確認・補正したうえで治療を実施することで、照射精度をさらに向上させます。

・呼吸などで動く腫瘍への追尾照射

シンクロニー機能により、呼吸に伴って動く腫瘍をリアルタイムに追跡しながら照射する事が可能で、正常組織への影響を最小限に抑えます。

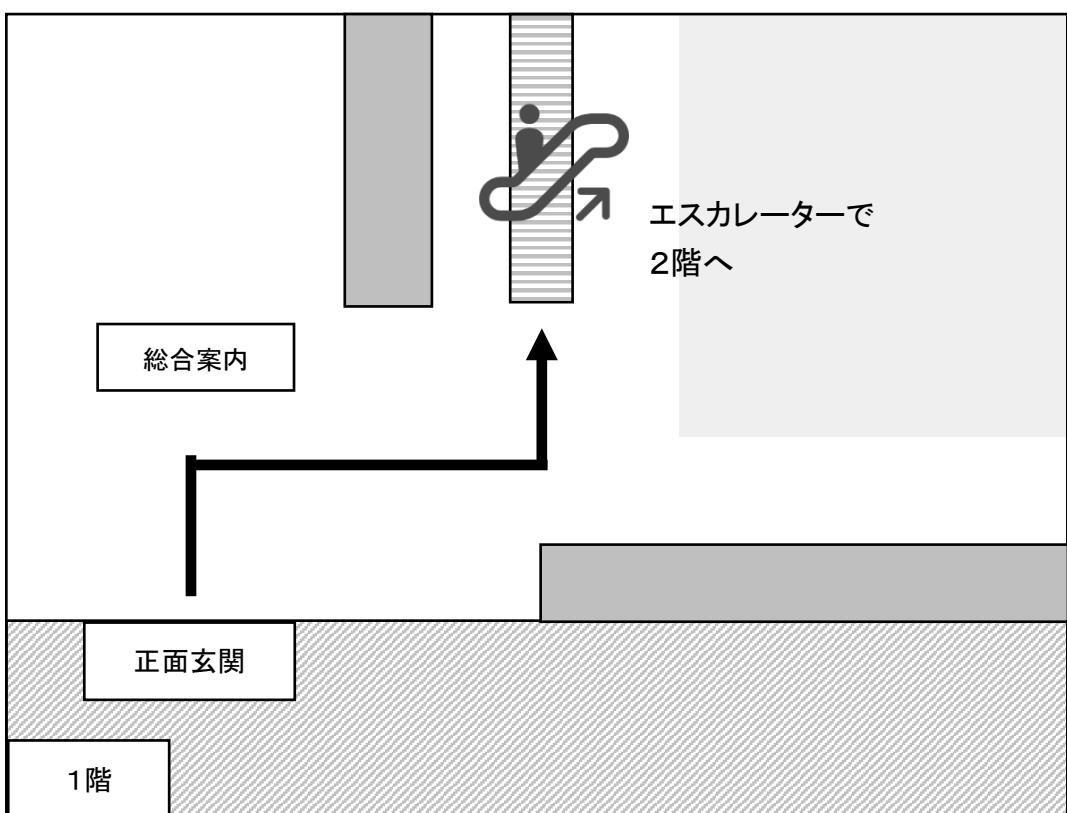
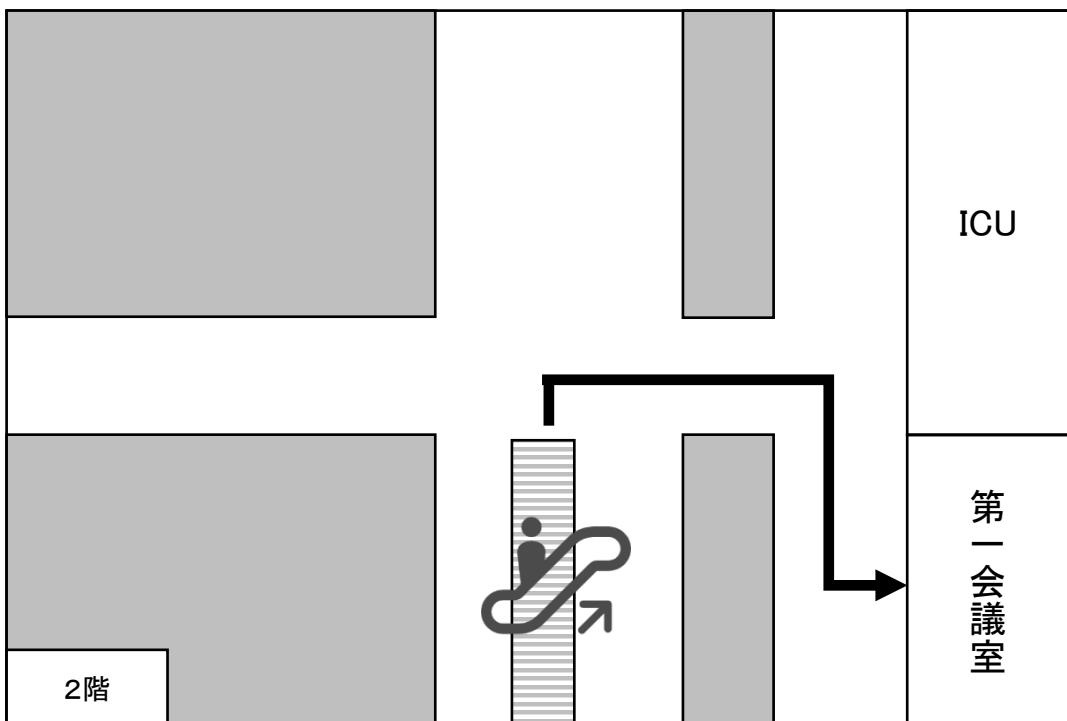
■ 放射線部長 東家教授 コメント

「このたび、当院では放射線治療装置として TrueBeam と Radixact の 2 台体制を整備いたしました。新しい放射線治療装置により、患者さんのニーズに応じた治療を提供できるようになります。当院では引き続き安全で質の高い放射線治療の提供に努めてまいります。」

参考：Radixact と TrueBeam の比較 ※治療時間や適応範囲は症例によって異なります。

	Radixact	TrueBeam
		
メリット	<ul style="list-style-type: none">・CT 一体型で高精度照射が可能・広範囲で複雑形状の腫瘍にも対応 (強度変調放射線治療)	<ul style="list-style-type: none">・治療時間が短く効率的・定位放射線治療に柔軟に対応・汎用性が高く、ほぼ全ての部位に対応

メディア内覧会集合場所のご案内（長崎大学病院内 2階 第一会議室）



- ・正面玄関を入って右手に進み、エスカレーターで 2階へお上がりください。
- ・エスカレーターを降りた後、再び右手へ進みます。
- ・ICU（集中治療室）の手前を右に曲がってください。